Part 1

みらい創りカレッジを紹介します！

みらい創りカレッジは、産学官民が連携してアイデアを出し合う新たなまちづくりの拠点です。富士ゼロックス㈱が研究している最新のコミュニケーション技術が活用されています

「触れ合うように学ぶ場」がコンセプトです！

遠野みらい創りカレッジ スタッフ（富士ゼロックス）佐々木 愛実（まなみ） さん

上／カレッジの開校式には、富士ゼロックス㈱と本市の関係者のほか、地域住民らが出席。土淵小学校の児童が昔話の語りを披露し、新たなまちづくりの拠点の船出を祝いました　右／同日、同校の児童や地域住民らが「未来の遠野を想像しよう」をテーマにカレッジで行われるカリキュラムの一部を体験。さまざまなアイデアが出されました

対話から生まれた構想

「みらい創りカレッジ」は対話の中から生まれました。東日本大震災以降、盛岡を拠点に沿岸被災地の支援活動に取り組んでいた富士ゼロックス㈱は、本市と共同で復興や地域活性化について考える「みらい創りキャンプ」を平成24年から計4回実施。産学官民の多様な人が対話を深める中で「今後もこのような学びの場が遠野にあったら、地域がさらに元気になるのでは」との声が上がり、このキャンプを発展させた「みらい創りカレッジ構想」が生まれました。

最新のコミュニケーション技術を活用

本年4月8日、本市と富士ゼロックス㈱は協定を締結。旧土淵中学校を利活用した新たなまちづくりの拠点が誕生しました。カレッジは、企業・大学・行政・地域などとのネットワークを構築し▽まちづくりへの提言▽6次産業化▽社会問題解決▽震災復興支援▽国際交流▽企業研修―などさまざまな取り組みを展開しています。カレッジの特徴は、各テーマについて議論する際に、同社が研究している「対話」を基本とした最新のコミュニケーション技術を活用していること。通常の会議や講義とは違い、時には、お茶やお菓子などをつまみながら、和やかな雰囲気で対話は行われます。

気兼ねなく自分の考えを発表できる環境がそこにはあり、最初は緊張していた参加者も、活動を通じて打ち解け、活発に意見を交わすようになります。それぞれの視点や専門知識、経験を生かしながら議論を発展させ、職業や年齢、価値観も異なる人の多種多様な意見を融合させることで、既成概念にとらわれない革新的なアイデアが創出されるのです。

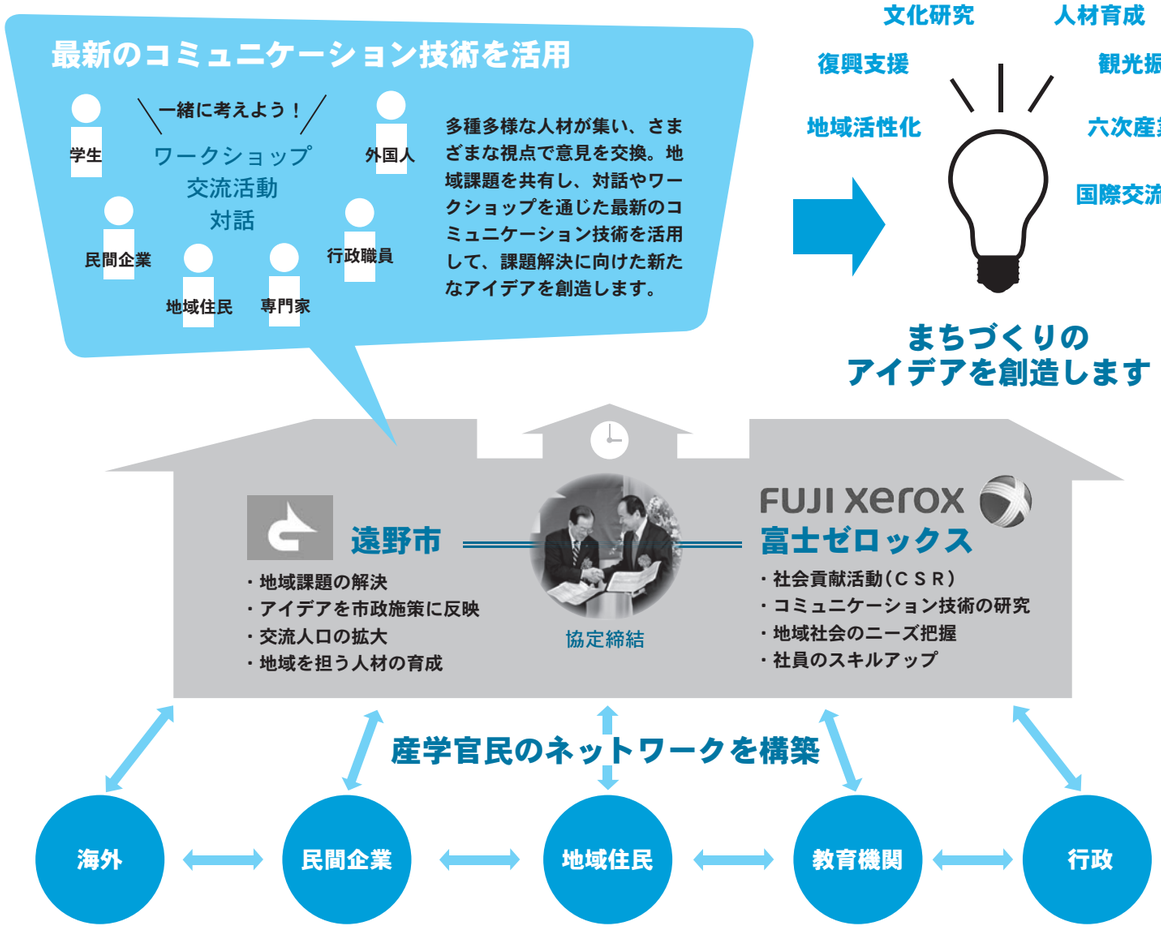
平成24年から実施された「みらい創りキャンプ」

活動の中には、被災地視察や農家民泊、観光などのフィールドワークを取り入れるものもあり、参加者は地域の魅力や課題を肌で感じ、アイデアに反映させています。

カレッジが生みだす可能性

「触れ合うように学ぶ場」をコンセプトに、産学官民が連携するまちづくりの先進モデルは全国から注目されており、活動に賛同する企業や団体も増加。独自プログラムや外部共催の事業も増え、人と地域が触れ合う場として定着してきています。富士ゼロックス㈱は、カレッジを拠点に地域社会のニーズを把握し、コミュニケーション技術を研究。復興支援などの社会貢献活動（CSR）や今後の事業展開に役立て、カレッジから得られた成果を全国に発信します。

カレッジを拠点に交流人口が拡大することは、本市にとっても魅力的です。外部の視点が遠野の価値を掘り起こし、特産品の開発や観光振興などにつながる可能性があります。自分たちだけでは乗り越えられない、地域課題の解決の糸口が見つかるかもしれません。また、地域の未来を担う人材育成の場としても期待できます。



information

「富士ゼロックス㈱」ってどんな企業？

同社は企業向けの複合機の製造販売や、情報管理、コミュニケーションシステムの提案などを行うグローバル企業。「CSRは経営そのもの」という経営哲学を持ち、社会貢献活動を積極的に展開。東日本大震災以降は、被災地への複合機の無償提供や、患者情報システムの開発援助など、継続して復興支援を行なっています。

企業データ
- 1962年創立
- 代表取締役社長 山本忠人 氏
- 社員数 8,592人（平成25年度末現在）
- 本社　東京都港区

ホームページアドレス
http://www.fujixerox.co.jp/

FUJI xerox